

2. COVID-19 患者受け入れ機関における院内感染対策 および病院管理事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

COVID-19 流行は、全世界に影響をもたらしていた。国際医療協力局は保健医療分野への支援を数多く実施しており、JICA を通じた技術支援のほか展開推進事業を通じた支援等バックマイ病院（BMH）や関連医療機関への協力も継続して実施してきた。

BMH は保健省直下の医療機関であり、周辺機関への支援・指導機関であり、今般周辺地域での COVID-19 感染対策では、中心的な医療機関となっている。NCGM は BMH に NCGM-BMH 拠点事務所を置き、各事業において関係機関との調整を行うことで、円滑に事業を実施しており、令和 3 年 1 月 14 日に同事業にて研修を実施し、実施後のアンケートにより前回使用しなかった教材へのニーズがあることがわかった。

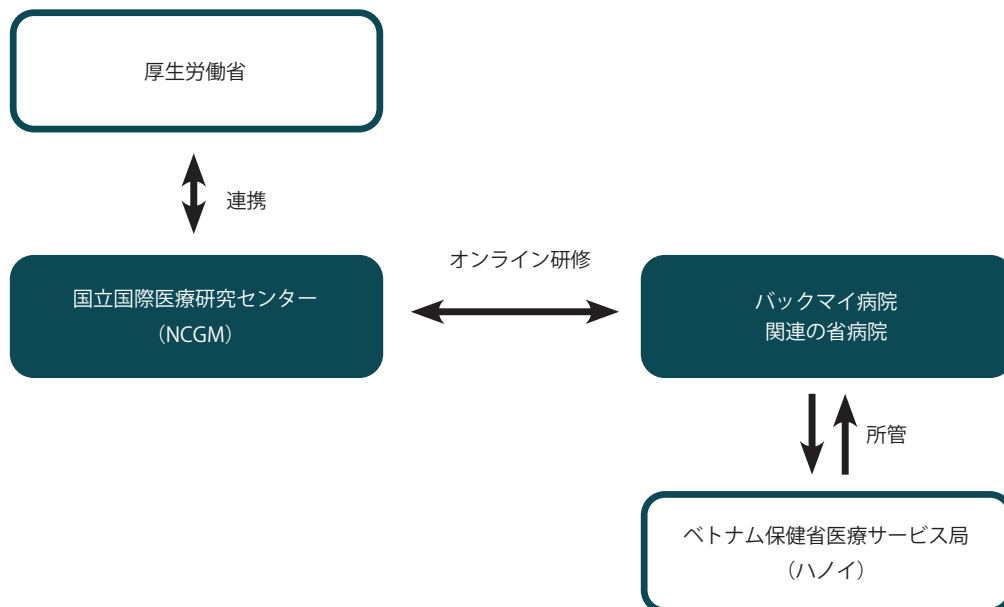
さらに、ベトナムを始め、国際医療協力局がこれまで支援を継続してきた国々、また日本が保健分野に関する協力覚書を交わしている国々から、日本の感染管理および病院管理について学びたいという声が上がっている。

【事業の目的】

NCGM は日本における COVID-19 対応の中核として、重症者を含む多くの患者を受け入れるとともに、地域の中核病院としての支援など様々な活動を行ってきている。本事業では、COVID-19 をはじめとした感染症患者を受け入れる医療機関へ、遠隔システムを用いた研修により NCGM の病院管理及び運営からの学びを共有することで、ベトナム国の北部地域等における COVID-19 をはじめとする感染症対策が改善されることを目的としている。

【研修目標】

研修受講者の各医療機関における COVID-19 対応のために病院管理および感染管理の対応が見直される。



COVID-19 患者受け入れ機関における院内感染対策および病院管理の事業に関して報告いたします。

当事業は国立国際医療研究センターの国際医療協力局が主体となり、対象国はベトナム国とし、また仏語圏を想定した新規国も検討することとしています。対象医療技術は感染管理ないし COVID-19 になります。

事業背景としては、COVID-19 の流行は、全世界に影響をもたらしました。国際医療協力局は保健医療分野への支援を数多く実施しており、JICA を通じた技術支援のほか展開推進事業を通じた支援等バックマイ病院（BMH）や関連医療機関への協力も継続して実施してきました。BMH は保健省直下の医療機関であり、周辺機関への支援・指導機関であり、今般周辺地域での COVID-19 感染対策では、中心的な医療機関となっています。NCGM は BMH に NCGM-BMH 拠点事務所を置き、各事業において関係機関との調整を行うことで、円滑に事業を実施しており、令和 3 年 1 月 14 日に同事業にて研修を実施し、実施後のアンケートにて前回使用しなかった教材へのニーズがあることがわかりました。さらに、ベトナムをはじめ、国際医療協力局がこれまで支援を継続してきた国々、また日本が保健分野に関する協力覚書を交わしている国々から、日本の感染管理および病院管理について学びたいという声が上がっています。

事業目的として、NCGM は日本における COVID-19 対応の中核として、重症者を含む多くの患者を受け入れるとともに、地域の中核病院としての支援など様々な活動を行ってきています。本事業では、COVID-19 をはじめとした感染症患者を受け入れる医療機関へ、遠隔システムを用いた研修により NCGM の病院管理及び運営からの学びを共有することで、ベトナム国の北部地域等における COVID-19 をはじめとする感染症対策が改善されることを目的としています。

実施体制についてご説明します。当院は厚生労働省と連携しており、バクマイ病院は先ほどのスライドで述べた通り、保健省直下の病院であり、ベトナム保健省医療サービス局と密接な関係にあります。本事業はオンライン研修を通じて、医療技術の移転を行いました。研修目標は、研修受講者の各医療機関における COVID-19 対応のために、病院管理および感染管理の対応が見直されることです。

1年間の事業内容

活 動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A. 現地とオンラインで研修ニーズの確認、研修受講者の選定など					→					→		
B. オンライン研修パッケージの作成												
C. オンライン研修の実施、評価												

3

1 年間の事業内容です。本事業は昨年度に引き続いて 2 年目の事業です。

現地とオンラインで研修ニーズの確認や研修受講者の選定などを、NCGM バクマイ病院拠点の支援を得て、メールベースにて調整を実施しました。

また、1 年を通じて、昨年度作成したオンライン研修パッケージの作成として、新型コロナウイルス感染症に関する知見の蓄積に応じた変更を反映するため、アップデートおよび追加資料の作成を継続、各種動画翻訳を行いました。これらの活動で得られたニーズやオンライン研修パッケージを用いて、オンライン研修をオンデマンド配信の形式で実施しました。



4

オンデマンド配信の形式で実施したオンライン研修について、受講者の理解を深めるために研修を補完する教材として、BMH を通じて感染管理に必要なマスク等個人防護具の供与も行い、また対応する研修パッケージを準備することで、受講者が実技として自ら装着訓練を行えるようにしました。

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	オンライン研修受講者数（目標 2病院、100名）	研修で学んだ病院管理、感染管理に関して、研修後院内で行われた研修数（実施数、参加者数）（目標：各病院で少なくとも1回、参加者20名）	本研修の内容が各病院管理のガイドラインに導入される。
実施後の結果	①ベトナム・バクマイ病院および関連する病院に対してオンライン研修を実施（3回、100病院以上、計1,239名が参加） 参加者からは高い満足度と自己評価で高い理解度が得られた。 ②仏語圏を想定した新規国、もしくはその他新規国におけるオンライン研修についてニーズの確認と実施の可能性の検討に基づき、オンライン研修は実施していない。そのため、①でのニーズを再度確認し、①について計画に加えて研修を実施した。	・研修参加者に対するアンケートを通して研修参加者のニーズを把握し、適時のニーズに合わせた更なる研修を提供・実施した。 ・COVID-19の流行状況および医療機関の体制の逼迫、医療従事者の多忙もあり、本事業の研修後の院内研修の実施に至ることは困難であった。	・COVID-19の流行状況および医療機関の体制の逼迫、医療従事者の多忙もあり、本研修の内容を各病院管理のガイドラインへの導入に至ることは困難であった。

5

今年度の成果指標とその結果です。アウトプット指標に関しましては、オンライン研修で2病院から100名が参加することを目標に挙げていました。結果としましては、BMH側の希望もあり、BMHおよび関連する病院の医療従事者を対象として、3回の研修で100病院以上が参加し、計1,239名が参加しました。参加者からは高い満足度と自己評価で高い理解度が得られました。また、仏語圏を想定した新規国、もしくはその他新規国におけるオンライン研修についてニーズの確認と実施の可能性の検討を行ったところ、結果的にオンライン研修は実施しませんでした。そのため、ベトナム国におけるニーズを再度確認し、ベトナム国での研修を、実施前の計画に加えて実施しました。

アウトカム指標に関しましては、研修で学んだ内容が更に研修後院内で研修されることをあげました。研修参加者に対するアンケートを通して研修参加者のニーズを把握し、適時のニーズに合わせた更なる研修を提供・実施することはできましたが、本事業の研修後の院内研修の実施については、COVID-19の流行状況および医療機関の体制の逼迫、医療従事者の多忙もあり、困難でした。

インパクト指標として、本研修の内容が各病院管理のガイドラインに導入されることを挙げました。こちらについても、COVID-19の流行状況および医療機関の体制の逼迫、医療従事者の多忙もあり、達成は困難でした。

今年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数
→なし
- 事業で紹介・導入し、相手国の調達につながった医療機器の数
→なし

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)
→1,239名
- 日本で講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数
→0名
- 相手国で講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数
→0名
- 遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数
→12,390名
- 期待される事業の裨益人口(延べ数)
→2,400万人
(バクマイ病院が中心となり医療サービスを提供するベトナム北部31省の人口)*

* : JICAベトナム社会主義共和国バクマイ病院プロジェクト終了時評価報告書(2004)参照
https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/11781408_01.pdf

6

今年度の相手国への事業インパクトに関する報告です。今年度の研修における直接的な医療技術・機器の国際展開における事業インパクトはありません。一方、健康向上における事業インパクトは、事業で育成した保健医療従事者の延べ数が1,239名と、当初の計画を大幅に超えて多くの方に参加していただきました。昨年度と同様に遠隔システムを用いた講義を行うことで、より多くの医療従事者にアプローチする機会を得られました。BMHはベトナム北部の医療サービスの中心となる病院であり、COVID-19の治療において重要な役割を担う病院であること、関連する病院からも多くの参加者を得たことを考えると、多くの裨益人口が期待されます。

これまでの成果

- 令和2年度
- 教材作成: COVID-19へのNCGMの取組みや感染症対策をまとめた教材を作成した。
✓ 他事業と連携することで複数内容に関する資料教材(32項目)を作成し、多言語(越・英・仏・他)に翻訳した。
 - 研修実施: 令和3年1月14日にバクマイ病院の70名に対しCOVID-19研修を実施した。
- 令和3年度
- 教材作成: 知見の蓄積に応じた変更を反映するため、令和2年度作成の教材のアップデートおよび追加資料(10項目)の作成を行い、多言語(越・英)に翻訳した。
 - 研修実施: ベトナムおよび仏語圏を想定した新規国等におけるニーズの確認と実施と可能性を検討した。結果的に、バクマイ病院および近隣病院の医療従事者に対して適時に内容を選択し、3回の研修を計1,239名に対し研修を実施した。
 - 本事業を通じて、ベトナムでCOVID-19等の感染症患者を受け入れる医療機関へNCGMの病院管理及び運営からの学びを共有することで、COVID-19等の感染症対策の改善に貢献し、目的を達成したと考えられる。

今後の課題

- 現地における医療関連の研修のニーズについてもアンケートを通じて把握した。COVID-19等の感染症対策以外の内容も含むため、今後の関連する事業実施等に活用していきたい。

7

これまでの成果と今後の課題です。令和2年度の成果として大きなものは、COVID-19へのNCGMの取組みや感染症対策をまとめた各種教材を作成しました。他事業と連携することで複数内容に関する資料教材(32項目)を作成し、多言語(越・英・仏・他)に翻訳しました。

また、2021年1月14日にバクマイ病院の70名に対しCOVID-19研修を実施しました。

令和3年度の成果では、COVID-19に関する知見の蓄積に応じた変更を反映するため、令和2年度作成の教材のアップデートおよび追加資料(10項目)の作成を行い、多言語(越・英)に翻訳しました。研修実施に関して、ベトナムおよび仏語圏を想定した新規国等におけるニーズの確認と実施と可能性を検討しました。結果的に、バクマイ病院および近隣病院の医療従事者に対して適時に内容を選択し、3回の研修を計1,239名に対し実施しました。

本事業を通じて、ベトナムでCOVID-19等の感染症患者を受け入れる医療機関へNCGMの病院管理及び運営からの学びを共有することで、COVID-19等の感染症対策の改善に貢献し、目的を達成したと考えられます。

今後の課題としまして、現地における医療関連の研修のニーズについてもアンケートを通じて把握しましたので、COVID-19等の感染症対策以外の内容も含め、今後の関連する事業実施等に活用していきたいと考えます。

将来の事業計画

医療技術のベトナムへの定着の展望:

1. バックマイ病院、関連の省病院や下位病院の多くの医療従事者に対して、COVID-19およびその他感染症に対する病院管理、そのための体制整備、臨床現場における院内感染対策に対する研修を実施し、普及する:実施済
2. 研修で学んだ知識が更なる研修で普及する
既存の各病院間のネットワークや病院間の指導システム(DOHA)を通して学んだ知識が全国的に波及する
現地予算での持続的な感染症対策の研修実施される
3. 国家のマニュアル・ガイドラインに研修で学んだ知識が取り込まれる
4. 技能により質の高い医療を受けられる人が増える
5. 対象国の公衆衛生・医療水準の向上に貢献する

医療技術の他国への拡大の展望:

1. 本事業で院内感染対策を含むCOVID-19対策に関する当院の対応をまとめた教材が作成された(複数言語に翻訳済み)
2. アジア・アフリカの同様の課題と研修ニーズを抱える国への研修を実施し、他国に波及するオンデマンドでの情報共有も可能である。
3. 参加者へのアンケートを通じて確認された現地における医療関連の研修のニーズについて、今後の関連事業等に活用する

8

今後の事業のインパクトを記載いたします。今年度作成した COVID-19 教材パッケージを使用した研修による垂直的展開と水平的展開を期待しています。

ベトナムにおいて、COVID-19 研修を BMH や関連する病院の医療従事者を対象に実施し、本研修には想定を大幅に超える人数が参加しました。今後学んだ知識が各病院内で普及し、適切な感染対策が実施されることが見込まれます。また、様々なレベルの病院から参加者が得られ、ベトナムの下位病院を指導する役割を担っている病院からも参加していたことから、ベトナムにある既存の DOHA システムを通じて、知識が下位病院に、全国的に波及することが期待されます。そして、継続的な感染症対策の研修が実施され、国家マニュアルへの反映や高い医療を受けられる人が増え、ベトナムの公衆衛生の向上に貢献することが期待されます。水平的展開としましては、本事業で COVID-19 対策や感染間管理をまとめた教材を作成しました。他国からの感染症対策及び COVID-19 に関する研修のニーズもありますので、今年度は検討の結果実施には至りませんでした。今後さらに検討を行いこれらの教材を活用することで、更に日本の医療技術が拡がることを期待されます。また、参加者へのアンケートを通じて確認された現地における医療関連の研修のニーズについて、今後の関連事業等への活用も期待されます。

これで、令和3年度本事業の報告を終わります。